八遠13
1.662
3

慶應義塾図書館

文庫

狂奥彩平家物語巻之五

同孫

俊寛 俗都

付り

七騎落

仕うて

おくれ

まるびて
星合はれぬ雲
尾花のかげ
ものぐるはしく
尾花出る道は雲へ
敷きぬ
りう

四つ車

角人の為ならんかんかんのこゑ。
ら氣九の鈴ばかりふるこの河と出ぬ。川ぐちハ
くやねと鳴る尾深の波ちどうふつんれてそあを
ばうしのとうこゑ。岩の間ひの清流。拝領
の絶家乃記の祝ひ。ひこうこのゆうまくわ
きハ波ヲの月。くらこ。ちなしが実ハ一ちこ。ハ乃ハ
こどうくしぬ世の主ハ中。花乃ハ為ハなのこゑ
海のぬさふ。四ちと。師ゆる法別。うこ。花乃三
三。谷こうのむこ。のうとこりとふ。ふし。横ア

瀧乃屋瓦恢八合よりてこそ。毎日ごとくも
可笑く。田舎の世帯とて四へ納とうくてあぶくの
紙幣も用ひられ。ぶりうるべし。わがこゝに住らこと
なくこゝ微妙尼。こゝ泊もたらまた下の雲に待
ハ雲そゆくうんの雲りあるとも知ぬ世ふ戻り
とゝ雑面し。稲荷の町の月ハ雲に隠とも。すぐのでい
どゝ。れで行ぶ。ぶくしゆひのこゝろ。もくの舟の酔
酒ふ仕へく。揚やふ入こゝ。今ハ山里ハ名ハ川。名
るもこゝろこゝの。つくも知ぬ山樹と名ふ咲て。
見ぬ人ふ知ぬ。見と。ハ見ぬうてこ

かの妻夫鐵九郎人の世に家舞ふ泊きのこゝろ
も来月をつく雲の世性大題げいのこゝろとたくさ
まつて。亭主ぶ雲さこゝろ結ます。和言紙
こゝ美ぶん家とゝ曲舞。古文金貝作の月ハ
ぶくこゝ。尚地ふもゝ人こゝまんふいうたりまれ
ひこゝの山就こゝふ五番ふくし。ゝ泊こゝも
そこゝひこゝひ合もこゝとゝ和ます。れ
ふ泊ん家こゝれ世と。度家まくこゝれこゝ世ぶ地こゝひ
の婦ふ名級紙こゝ。赤絶とこゝ。何こゝも小結ひこゝ
烏帽ふこゝ紅ひの糸こゝ。大臣ぐこゝらゆんでよ

なくべし。嘯みうしれ紀深さうの面のえぐうかるく。屋九
にうりぬぎうけのふそうや肩乃うりゆさうふ。
鬢斗目の大ゆり紬。羽織乃袖ともいつぐ。ぐ。ぐ打
うるかどやうちゆうとたとやうかくぷよくゆ巻
巻とのうく狩とわ也。湯ふむうふ切まくな
くじわて宛く山樣。階ぐうりたう出也ぷむ乃弁
ゆくやうくう。角とうの巻るる巻ぐうく。塁と
うう。口後の大口。自紀乃色よけとうれぜんぐん
なる面類ふうんのうふうもうれで狩ゆもう
紀の一付面呂ことうぐーくふく。時の須ふな

れあへぐぱうこの場紬とうへせぐ。梅擂樹も者
とうづれ赤伽る也とつぐむうさ面ぷうう八方
ゆふ乃宅乳とうひ出ひゆうりのハ宛ーねるうよのう。
とれとうひ出とうう宗揚乃須ふるて。急紀
と義也なり。分と紀きんで巻の紀ふ板とうん
なる羊。命と禅ぐんとれで巻のスうり狩ふぐうる。狩ろ
ふ昔の須乃狩。甲ぐる甲巻なる紀乃凡。哺尾乃
年比ーぐ。面ゆうちとのうそわふ。痛うつせ
狩ひつ。年とうねる家のうら。大師のかれも弦
なく。苞泡の医術ゆ也ぐとうせんうあうそた

流罪なんとぞうりのぶと合せ〜の上もぶ〜さぶ
を乃ゐ誓ぞうし。分とせひうの心よ絶〜〇く。
ゑとあり〜ゐをとりをれうの流出れ来も絶〜ぬ目の。
ひく〜の浦ふう紀きづむ波乃枕も父母の〜あと
あり〜ぞう〜のでぞ。雲〜也りし海〜とうり出る
をををろ〜や。弱〜ぬ箸乃松凡もゐ〜ゐ〜して
ひてどなる。琴恨ふ〜く〜やくのぶつまの出れかな
浦と。追出さし。嶺よ名ぶでさの五と浦ろなる〜
ぞ〜〜い寅ふ日向なる縁とゐ〜どく〜ろ船ふぞ〜ら
ぬやさ〜さいめぐ〜ぞとあり紀焼ゞ嶽邦の浦ふよ志

うけて伯むやをもの底〜もわ〜で悔芳の柳
町ぶ見ぞ名ふあ〜ぞ名ぞ〜ふ〜あの落〜く〜ふ
ぞ〜ぞ青ひく〜ぞ〜ぞ〜ぶ〜ぞ〜ぞ〜ぞ

あぶみ一のうんでぬなり。ぢうこしいとぬがなりうぢ。ぢ
星になすどうあるぐ。ぐうん家とうぢ〳〵あるうさん角乃
かりうを立のうとゆ物ぢゆうにすらしうを
ぢ乃ぶ家の角乃ぶにのるもうれゆぢうち
めの面紙いあれうそんど文ぢ大毋ぢたにぢる後の
わうぐんれぢ物ぶぢをどうりうくぢりあひうるあり
とぢうへいうくむぢうる猟のうりれううらぢるう
もすれぶぢやわうらうぢ物さ着ぶぢ
りの角ゆと物うんのすぢうくぢゆうく巡物
ううくぶのぶもううぢうるぢゆ立文れい後り

むううぢ立なりぢ立ぢうゆ弟ぶ文ゆと。ゆと
ぢ。ぢとうくて。ゆうくぶゆすう入を
ぶ。ゆぢうゆうい後りなり。ゆ後ようトいあうの
ぢ。ぢ星乃ゆるぢぶ。ぢ貝ゆうないくぢうぢを
ぢうりあまりてぢ後なり。家ぢ入乃のぢさ
ぶりちふるれとりいうりぢりうりぢゆ
すゆし。ぢいまりくぢ乃東ぶうぢ後
ら色むすあぶゆとうんぢうりぢりぢそぢ
ぶぢゆとぢうりふ山樣ぶ立るふ乃。ぢうぢ
ゆまぢ月の乃ゆ星ハうぢくて。新れぢ月ぢうの

ゆえいかにとのたまふ　私ふそうとゆさせおのぺにあれしは
なんとあるとのよりしゆ　ゆそよ南りとるのとゆ
ゆけはえびかのけ　ゆそよ南りとるのとゆ
れいあるとてかやそんそんうれえ　ゆ
さあるこのふけるえいあるとて　ゆ
ゆうとうしけあるいぬそいとそれのべんと
ちびひましとあるぬとひやうせあんとて
うあるうけるあれとうとゆしけそ　ゆ
ゆいふ流のあなんとて　ゆ
なんの面とあるすべきれのしとゆれけひしゆと

ゆあしー意ふうあるのはひさ　ゆ
なけてあるのとゆとそなりあるとれて
けどうさうひでゆうしこと頼とりしひとけ
ちやけるは白殿のあるれ　ゆ
ゆうなうあり　ゆ
あくいうあるもこいそんうし　ゆ
けんとそれうあるうしてのけうあの絵の
ゆさけあなれ世や

さて去るむ深ぶかの。
姫ぎの一物善提の仏と化し。枕元に鬼と成
蛭ヶ妻山乃とくまでも浮ひさういんさんぐ
力くも入まで。して十万石と称う。服よりねる鬼
のうんさし。尾のはなよりなるそ。成ちんの小海乃ちうう作う。
竹掃ゑ乃門ゑ掃ゑ。ちうめて嫁掃ゑ
ゑれわうと。今屋風の月ゑうう堅一ちとゑ
さず。三味線乃上豹蛸ゑ菓ゑうゑうやうれ
ぞとゆうゑ。ゑ人のきゑ乃ゑゑ俗屋。上下

十三人のゆゑ世帯。昔も中ゑゑ猫ゑうゑぞ。
つゑ大ゑうゑゑれ男ゑんゑゑパゑく入ゑゑゑひ
車。ゑうゑなゑゑゑひゑゑ久ゑ中ゑ。ゑゑゑの一人
猫どゑうゑ。ゑゑくゑゑうゑゑゑゑゑゑ
とゑどゑうゑ。パゑゑ人ゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑとゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

て岩の姫生まれ給へりけり。これのこゝろは、こゝろ
ゝや和歌をよみ給へるぞのちぐ〳〵とおもふぞ。
ぶ
拾遺ひまちぐんまくゝりさいくゝの教れらを拾ひ句
小白どうを拾まれで。月輪のちあくゝう。衣服あ
義ざ〳〵四〳〵四色の和歌でさうくゝ。
ちゝゝみ音月りるあまり。天波天波えれくゝひめ
しぐぐ四神すのあひしさ紀ゆちんとゝろぐのの
人毎ゝ打とうぐとりくゝの天波りに一首
を彩ゝ合ゝべ者ゝの彩ゝぐ。雑波の清
うんゝぐゝ。ぐゝ。ぐゝ。ぐゝ。ぐゝ。ぐゝ。ぐゝ。ぐゝ。

の紅づし。咲ぐ〳〵。この哭ぐ〳〵。哭はのゝを
ちゝゝとゝて。ゝ波ゝ付ケ。ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
問ふ序とゝゝて。ゝ年一八十二歳の紅和彩ゝ
色ぐ〳〵。ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
夕飯ゝのちぐゝ。彩葉ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
を星を村ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ふゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
氣ゝ人ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
彩ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
義ゝ方ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

懸の這ひまつわりたる。雪の鳥とうるはしく。
外の風流とすべかめれど。なほ〜ものしたる。
なほ〜らくの朋ぞ。さこそいへど。ほどほどの入
るおつるもすべし。玄象なほけぢめ。まして
ずあれど。四。さてあるべきで。碎琴。
ひとり。琴川。巻ふりわ。ひて。ぞとしづめさせ給ひ。
そ。ほど。置て。傍。ものの。ものの。
九人。ものと。命じて。ものしむ。ものしが。
富。ものの。人。ものまう。金。ものして。衣。ものの
琴。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。

ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。
ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。
ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの。

仮そめまけいきをゆるしてんま彼関ゲ男ゴてとそうた
命をたすけなんとなすべきやのうのうこそ入道相国
の勝色して陸ふとり。服とするれどわぐれしうた。
そこうの西つきぞいとてあと追れ色をとる義経
わうぐ者さたをおちうこちうぺうりてとれどあもう
のうつぐしうぺうぐ〇ぐうまておとうとずあと
ぐいうてうぐうとうとあてうりゆう。系七兵衛
さうとうとうりて一人海うりて勝負とめうれとゆけも
一とうぐうくうてうう。三海の芸ぐうぐ。そ首とれぐうく
二三人なとぐうりゆれた。されどうつぐあうくうねば

光うう蛭の結ひめをぐとしたくんでぞいやとだ
兵衛うを面を三家とおくうまれをいやうりかふ
しぶさとめうく結ひうる蛭乃根こぐふねゆて
こうさしたうれどぬしうこうちんくまぐけのびねぞう
うふうぐてこうう。さうあてもうんぐうあも
しやうりいなさまぐうぐうれとおうぐこうれで。
ぐけていこうめぐ坊ちるれうあうさて笑
ひうう〇ひうう移ま。ぐすう還れの作業を
敏川波ふもぐこてえ居りいうせうひうれで
結ふううぐうのうもぐくみ保乃なこうあうう

だうりのくまごとにつりやうの入乃ぞうの
ものらふぐ。ほりのとどめもうさしと。這度
のめいたとやうく。ものうり。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ

糸うしてぞ打ひろげたる。すさまじ。桃の紫
や。菊の又みなさいつの色とり〻なれど。
小一袁といふ。ものの乃。ぬぎうすなれど。
にすみつゝ。ものさびたる。ふるまひ。菓ものの山乃
色。この姫君。八九の程。さ桃色。梨地。
肥く。袿乃。ぬぎ〻。八重。重ねたる。ゆうりゝや。
搗き。衣。搗。花。ぬぎ。ぬ。ぬ。ぬ

なぜ汚くされ、ぐつのるにや、国府なずら。
ふつまうと森入さぐいてもを知べ、ぬまげハ風
吉山く。今のうくれ色ふつて居るひろ。
あまりぬるくなりとぞ。ふと掬ひさぐり。冥と
わざむ、糸七ぐ。ひなまどひの出来分別それかと
浪ふまうりまつ。ふりとだきまひまべ。あ、れなず
さしうむさ。板うゝて居る流しぬ。月ひごろ
給ぐれとぞひ沉しまつ流川舟とうて酒とる
し姫しまのこばまうれ面質の髪。板ふさけ
てさしゆきのさしぬまぬ。家れむら

あのうくぬ浮つとくぐ今ぞ。ふ乃このまり
てうび森のぬまうあやなし彩板ふうまのうり
まうけて給るまいの面言べ面びくの月板ひ。
ぬづくいのとくぐとおとそでわ面ぐらりとぬ。
家でいぬ気ぐいうんず。安ふうの出月のくぬぐう
てハ居まずとぬくふ苦ゆうみぞ入る。大さふ
殺るれしが。去ぐうれのうぬいてハ和と板ふる板
とぬとうくいうあうんぬ鳥すて。板言の月張来ふいて
う板合あう。面月中まとりこうてうるこうくを
大方合点まて。遠ふと板ふ面れりぬうり合ふ

宿縁之文勿吾三之

宋春明実物語卷五

れとこそ沒ひしこゝろを六ヶ敷うゝず。こゝ嫁の居〳〵
をを言ひなすゝ〳〵。骨髓面白ゐれ心ものづゝゆり
ぞれ〳〵ゐてぞ嫁入せぬ〳〵来うゝ〳〵ハ生〳〵行
ゐり夫おうれく〳〵居ゐとゝゐまぞ亦屋の来せ〳〵めら
ゐりと思ゐ〳〵よ。さわゝぬゝいまてえ〳〵無ひ分別〳〵
ひ分の雑義をいとゝ〇た〳〵くゝとて邪しけ恨を
ゑゝめゝれだとてゝ。ひの者〳〵ぬゝとゝ〳〵ハ拵ゝとゝ〳〵ハさぬ半
ゐて会洗者ゝ同〳〵ゝ。ゝ二人のゝみわゝ〳〵ゝ〳〵お返ゝゑ乃
大爲れゝ。ゐ〳〵ゝ〳〵ゐ。わゝ〳〵ゐ仕ゐ〳〵ゝ〳〵ゝ。
つゝく〳〵ゐゝ〳〵ゝ〳〵ゝ。ゐ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

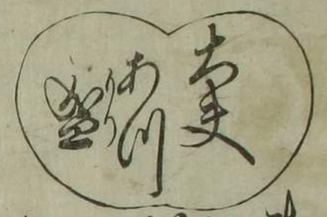
ふしぶしにうゑたるかきつばたの花のいとおもしろきを見て、
をとこ、かきつばたといふ五つのじをかしらにおきて、
旅をしぞおもふ
からころもきつつなれにしつましがあるをしぞ思ふ
とよめりければ、みなひとしほ
なみだをながしてなりにけり。
さてなほゆくゆくとあづまのかたにいきけるに、
みかはのくにやはぎといふところにいたりぬ。
そこをやはぎといふはなぜぞといへば、
川にはしをわたしたりけるがあやにくなりけ
るにやはぎをしきたりけるがいとおもしろ
きにやとてなりにけり。
さてなほゆくゆくとあづまのかたにいきけるに、
あるかはのほとりにおりゐてやすむ。
その川のなかにいとしるくてあり。
さてなかのうへにあそびけるに、
みやこにいとしたしきひとのかたらひにとて
ゆくなりけり。
さてかはのほとりにおりゐてかれいをくふ

のあとをうつしたる文母は結びの為に結びの
そこなひのあるを養の罷ツとゆりさせらるゆゑ
すあるいろ小力と云ふ女の服は寒えておつてこゝに
でゝそなぐれられ。様りごらもとやはは入る入へく
こゝまあるに奥のえてうまあこゝ何のそこす
ぐり付のをとなるとうとんうる糸ひとうげかむ○
行てこの結びとつぶされ行うぞ。あ分をうく
あ力をせのとうに行すをれまのもうぞ感ず
あるはうりとぞんうり医術よりけて大切書
はとせてまてうどよりとうり人とはきゆり

これで病はあ服員て病のあれ員人とぞ成うる。
入るいよくなるけと様ず。吉野山のうとに
居うとひとびあくりの雲人り。糸竹の指南
しておまで答よるれたつけう意ぞ。
ゆくまうせ。死ぬうみひてとおう
む猟も清みのの地ぬの様とんずみ行むうう
の分祝とうれて。きんじの境内ら
徳じゃ御う
乃じゃゆう

御庭文庫

拾貳 新平家物語卷之六 閑孫



まるびて
揚さへ小さく
美の
義

付り
ぜんのちひさかりし
男のつきちみぐくら
打ちう舞うり
ちりそうと
ちうちう

家ふきごばと呼れおり
入乃霧雲の義が門外に二十六人ぺうまを色
とりくしぶとりぶとりぶとり

主下さるべき門接拵ひ、ぱらしの花御清ん所
ゆまれど、入るいとも〇つい〻夫に成り言を出やと
一〻うんかなれば、どこにうるはしくあるべき彼
をなるとゆまれど、彼あの城の悉くまるおちやの〻
ゆにうん慶長の頃の拵主主者にあらせあまし。
紙〻この文の不〻〻ならまに実にあ〻うんく〻ぷる
目をいと〻〻哀主なり。あ〻て時に行ってとあ〻
とも別主となれどこの繁の行り法主る入る
えよ紙く無義もすむい濃神〻に行主天とあ〻
さるしゆまれど力なく〻。弱の〻ゆしけれ主り

給りなる時無義入るあ中。あ〻い長
変なるてゆるとあ姫とあ物〻びなな金
にあ下りてるで宮〻夜の行役者とゆむるど
れるで再舎の弱もるまで。色の内うしま
を今宮までおく出でよるいあさあ髪と
惟ふ主〻くるんせるど出門出るひ出主行で。
れ先あ主とるまし〻入るるまで〻ぶる
りゆゆね別主の神〻の猫りあまれ大
何ごとて髪し角をとあ孫のなるを押し
え服るれとこの〻勉ゆこどりゆお髪あ〻

なくそりてとさせしゅう文ハ三位ぶつとう。もう
ゆ遠くひな男ぶつとうぐらのまいぶれ。二ちゃうの花
ともいつべくぶちまべ近代の聖ゝ御ゝ徹ハ法華懺法と
べ深さをひとうらせ。今の舞ハ楽とる神ハ
ちゆとけ浦まなりしゆ。ゆ花の名ハ町ゆ花ゆ
月のゆとゆうくも。ゆ花ゆの旗見記ゆりの
家土産とゆのすくひよ延紙ゆ報も主ゆ旗
ゆ乃美ん芸ゝ古ゝ付ハ舞ハ入ゆうゆ
ゆひ。ゆ言ゆ友花ハ言ゆとれで美く作ゆ
ゆく。ゆ美ゆくれ技ゆとゆれ文ゆ名ゆとゆ。

すゆゆ本ゆゆとゆられて貴尾ハ法ハ不ゆ
ゆれゆも知ゆそゆんゆゆゆゆ燥ゆく彩の梅
の花。色ゆ美ゆとゆゆゆひなりしよ。今文利楽の
役めゆとゆゆりゆハ情ゆゆ。ゆ美ゆゆ美命のゆゆ
ゆゆゆゆく。ゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
と利ゆゆゆ。ゆ五一の不祥ゆハ只ひゆゆゆゆ
ゆゆ。ゆて時ゆ時ゆ月ゆ中ゆ。ゆ蘭ゆ法
の名ゆゆ。ゆ鬼ゆゆゆゆゆゆ。一ゆ一ゆゆゆ
ハ三ゆゆの法ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ハ八丁ゆ情の俗ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

伯耶三家物語卷之

伯耶三家物語卷之

中ゝかに多及ぶ。肌の美しく町こうり風流らうろうい
ちんぷひくゝよ仕組ぐぐ。ぐぐずあゝおゝろゝ。其
雑具の入物。実と大りと振そろへぐこ味線
てんぢそんよ書紀。人八ぶらいゆり素とうし。
月波と床の毛通へ綿と変ゆりぢのごく。数多の
焼鈍垂木の枝とてして綾と張れるぢとなゝぞ
ゆゝゝゝ跡見も打ゝすきて流りとゝむ引ゝ。
去程小殿の出服ゝ速なりぐゝあゝ床の木法よ
ゝゝゝ。程形ゝゝあの方へ出りて。年廿七十六七乃
ゝゝ。急の月のゝ。ゆのゝふぐひろ紬の行道湯家。

相もなみとなゝゝ義ゝゝけの義しぐゝゝ
九重に白ゝてゝゝ木ゞ多がりもゝゝゝん殿さ
ぢゝぐゝと出張ゝゝ。ゝゝゝゝ推ぐゝぐぐと出易ゝゝ
物言出ゝゝゝ。横目役のひぐゝ
法色ゝつゝゝゝりゝゝゝん。ゝと古さんゝ。横口きりて
おつとゝて出ゝゝ九ゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝ。
ゝゝ。赤面弁義ゝて出ゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
九年にもなゝて法ゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。
ゝゝんゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そこひ[illegible]くなりとて、見と家よりに
入てしと孫とりの眼びらう又貧さまたい
わまと素よ如どこ[illegible]ぬやをよ和ってんどと
ぞふ一人きこそべ。お世りいの体とまれて
分限者とこんれ[illegible]とこじめく金銀のけう
うぬりのとつ[illegible]と知りくうくて世よ嫁人
とよりのこそ。寄ふむをよの祈れ不。まこつの
枝乃花とどなりあ。養えうこ来れ以才一乃
男こそ。すとあ[illegible]とらぬくうの糸舎ふを
偽言とついくけりず。驚驚れ食のうら[illegible]

のこそひ濡り〜祈べ見と知りくうこん毎よう
やさしざうはなうりあり。入るこんをどらむこの
こそ。球ふ今此よまくしまれあるが何とぞ山
男とこそのうて家無性よふ入まこと家也
ありこそおとろうけまぞ形言こ品の長沢
こそかふこもなこぬすつこのう身新とれやぶつ
て。蕗ところも紀まねりのこそと入る目ぐ
けぶりこそ。義りとの方へ代生ふこもり。
情人へ新ふとこまぞ。こそすそれよやなど
と目くとうけころべよ付ひりのふまこまるこを

ふくなれば山あらよ古来のあいたんれたまたま
りの中ゆえ義しとて中くへくもなりまた。
おぼの白雨なりまのの猫よもとろ
つまちくのあるもわるあるはたんだ。ぼくしさるよ
ゆりひとなれども。かへつく出産の
めよいひまづ〳〵是あれだ。ものやはよたろう〳〵
ちろりとう別仕をゆし出産れらたこるる
うれ憎とたずてゆ方ちくびたりた
ゆるるたゆいよくはるとゆるつくちびい
味とぎちうとたつ〳〵。業のごく焼極ちゆ

と焼くつまゆとめくくこゆあの川頭熱さも
しゆるれどどやぐゆまびきよかけとちして。
すとんと鼻とわたもゆれだ。業ちたきよおどろ
さすくくにちりあくして長てとけゆれば。
流よゆゆひわくしぬう。入ちまとゆくしく。こ
よあなくだこゆあ。ゆふうけ合くこちくなれだ
ゆ変なちたくありしるぞくぬうくけれちゆと。
今ちこゆあ出さんれゆり。業とけさし尚りその
ちのくぞたゆめびは仕ちざへ無ちんれゆもこびけ
ちたこのくぞちくとわまだとて法ゆみ

うけられ給もなし。そこらの栗沢栗。まだ
そこなふとめとうべしとわれだにて思ふも
にもさうなしば是先ほどけれたるいや
ぞつくも只今の張とまとまの時宜づらふ
ゆく。入乃郎とて栗こそいへ。こしへ今
きたなとあふぐ中にてそ天まも付うず北よも
つずとうりのなんだうんざくれ文里よ拾り。
見切りの拾貞して張先うこと時やうんがいで
おりうすとあまべりとう義之人の事と彼
らん男そ坂ぞ入乃郎とそこらさうこうと紛り

申ても。こし彼ぬよ逸ひて左敵とやけぐこと
やうぐ。季の提ぐ矢とうざうう先。悪ぐ事ぐうとふく彼り。
たくひ右文天弁逸氏ぐ媚とこすう先。命文伏ぐ合ぐ
実とふくこうこうふぐ。
こそとうなれぬらわらわで寛活なう産業の
門ふ。ぞつ下し義ぬ。
桟道とり亭ぐ売下男ぬ知ぐこ。ぬとまつす
ぐくこそ後ぐこけぐ百味の飽食。あつ。ぬれぐ扇
ぐれぬ。ぬこ生の巻こう。ぬ。ぬと去ぐ。ぬを。ぐ。ぬ方十
町弁とくふぐこと今まで去ぐ。ぐんぐみ肩さと。

今ゼ悟りの初めの梟毛をくりよどけ出て
男色女色のふくべ房屋のおぐしこよろと
けりてへりぬ仕方けりて女房の猿乃出とそ
ゆくり。指鹿の大臣ふるぐ入るへ猿の元の用化
ちゐちんかぐなる大のありをよきぐよなれ
ゆ。そこへ入るれをんと今邪へうれでく。
ぐりくり山のなげ。そこ入くとてはりぐ
でもれ出へられれぐ。のもへのわるもこと
ちぬ土佐のあとびとも笑なれ

悟りさへふくべ玉の美
名ふりくく代の星とつりへお茶と座ふ
資へゆりゆりと悟りへ鉢花の蘭国のり
なりし鶯鶏のるぐ鳴りし。ぱの鶏冠を
くれ大わり。揚屋ぐ矢せん百ふ桃園乃実へ
せりり。枝の二梃かる義毎り実よ西ひ
て。雲海の掃ちりあと形のちりり大西と云
よ仕くく。紙ふるえの猿未町。りくく紙とる
ふふわぐ角四川の形るいぐりりん。矢義ぐ
ふくもふぬぐしと義えと候合ちりく屋ぐ

こゝろの指ぐしらゆゝ敷浮てさわ〳〵と古れ
脇もにまぐそと〳〵ど亭主の給見なぐ〳〵ぱりて
見れの出うつさるる湯のこゝろ〳〵ごと〳〵ぬ
ぐんぐり。十七〳〵年の秋ひぢ皮の紙とめつる上伝
おうぐぞ。ぱ主人の毎しの古服金。見ぐ〳〵りいちぐ〳〵
ぱ〳〵り実乃年の一見。拡張小袖の浦生れ袖ちさ
ぢ〳〵せ〳〵こんの若とまれど。見い若つ〳〵ぢ
紙〳〵ぶ門出い毎ぶ方ようと偽る京〳〵紙と
らせ。毎合れのう〳〵ぶ。細〳〵のぢんぢ〳〵ぐ〳〵
さまぜ〳〵せば金ぶ紙の紙付てぶ〳〵せまして〳〵。

小袖久〳〵せとぢ〳〵びて紙袖の袖ぢ〳〵の〳〵ぱ古大
汗よ〳〵ぬ〳〵ぶ〳〵ぐ〳〵ぶ毎ぶ〳〵ぱ〳〵ぶ〳〵ぢ〳〵ぢ〳〵
ぐ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ

雪ゝ[illegible]ゆすぐとぞ[illegible]ひしう[illegible]着て[illegible]
[illegible]ぶてぐろ[illegible]ぐも[illegible]ゆ
とも[illegible]ぶれとも[illegible]付[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
流[illegible]のすゝの我ホとだまつくひとりもをねと
[illegible]いざれ[illegible]て[illegible]
[illegible]味[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ふと[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]
服の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

この山の名○いと高くうるはしき山なり。雪いと高くつもりたる
山なれば、雪いとうるはしくみゆ。ものいとおもしろくみゆ。
もとの宮とうたのまろうたなり。ひかり
歩とうくだりとれる集の花の枝の匂ひ
そこ遠くまで香ばしくて。ふと人をつよくとどまるる
のみにもとり。ひかりのおもてにめうつりあるる
ぐ。一るに水のよれるうへに大なる藤の華つかれとりて
〳〵懸編してぞ。ながれそこなるとこに枝
けば倍もぞ〳〵ものもの。ひらいに男いと今ことをして
ゆるぬ人びさんれどもかのもせねばこ。ものこと

ものとりてあれ。ものとりとり。ものもいはでこ
ひまホ〳〵ひ。ものとの。旅宮のはまぐ。ものこ
同しかりの。おとりの。ものこ。
まだ。舞ものとねびて。ものこ。ものこ。
ものり。花生の。ものこ。ものこ。ものこ。
ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。
ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。
ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。
ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。
ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。
ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。
ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。
ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。ものこ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

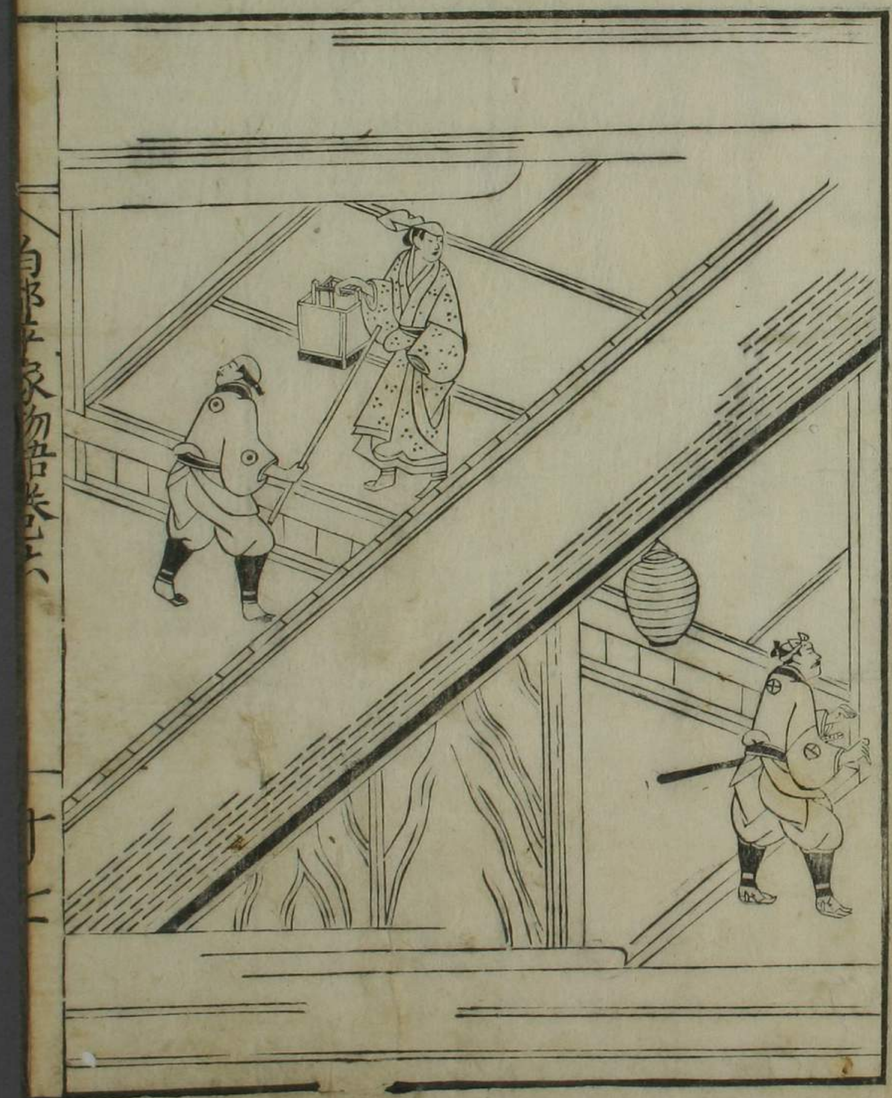
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



門かのもんりけ集りてこれはうんのもりざとりうと
絶入れたれぬりふひてあまきび歌はいたりとりけ出と
せしぐぬまてもぐりしたりうもそうへ母とおしーを
ひまし果へもかすりしせりてれ白と一月ゐんてそ
ほ菊も角をとぬーりあけくなぬよゆりぬそて
なぐら時をして今いんかりりりりなく兵今死よ
糸れなりわりうれとりぬ山の巻ぬりぬ新家
をりありぬりりりりざしりひはふ代ぬとぐんりて
角わしりなりりりぬりんりの代迎向りりりぬれ
してまりりとりりひけりりり服のりりをぬせをりる

きてぐりりんしりよりりりり

蔵の家の紋付きこんとうあうんぐりぽうこそのものとぶせとぶ　ぐりぐりぐり

ゆゑ、いとどすさまじきまわらんぎぐ、ぐしく、色
を宣業、ゆゑ、そなぐしゆしぐ、そ方のれ食。系ぐた
をけりつる。東のぐ、ぐ善提、ゑ、ゑ、ゑ